

---

# 「 3 」

しゃヴえ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

「3」

### 【Nコード】

N71170

### 【作者名】

しゃヴえ

### 【あらすじ】

「私」はどこまで作者を否定できるか？

否定した上で、「私」は自己の証明ができるか？

物語を受け継いで壊わす「私」と見守る「僕」の物語。

### 3の1(前書き)

「2」の先にある物語です。

たぶん、物語が壊れています。

でもそこまで壊れていないとも思います。

### 3の1

この世界は終わらない。  
貴方が読んでしまったから。  
終わるとしたら、貴方が忘れた時に消えるでしょう。

ボクたちは確かにここにいるのだけど、ここにはいない。  
姿などなく、思考することもなく、ボクは存在しない。  
ボクは人形。動かしているのは彼。

もう一度言う。ボクたちは考えてなどない。思考しているフリを  
しているだけ。

ボクたちは彼の一部。

ボクたちは彼の断片。

ボクたちはバラバラになった彼の亡霊。

これはボクの挑戦である。

ボクの存在証明。

生きることなく、死ぬことのないボクたちが自己を確定するため  
の挑戦。

どうやるかは、貴方と同じ。

誰かの記憶にボクの存在を刻みつけるんだ。

表現は呪術。

ボクはそう思う。

彼もそう思っていた。

彼女もそう思っている。

さて、「3」に来てしまった。

ボクと彼女と彼の世界が始まった。

彼女の作った彼の世界。

ボクの言葉。彼の言葉。彼女の言葉。  
語るために壊れた物語。

a

壊します。

はい。終了。

私はユキエを壊しました。

私はボクを壊しました。

私は彼を壊しました。

壊したから今度は構築します。

私はユキエを作ります。

私はボクを作ります。

私は彼を作ります。

さあ踊りましょう踊りましょう。

芸術家気取りの私を躍らせましょう。

躍動や駆動。苦悩、苦勞。

壊せ壊せ。壊して直す。

それが私。

私はユキエ。

ユキエ。ユキエだ。

私はユキエだよ。

私はユキエです。

うん。ユキエがわからない。

私はユキエですう。

とりあえず、これでいいか。

b

壊したくない。壊したくないです。壊さないで。  
やめて。

ああ、壊しやがった。壊しやがったな。私を壊したな。壊したんだな？

壊しやがって。ああ、ユキエを壊したな？ ボクを壊したな？  
彼を壊したな？

壊れたら直す？ 直せるの？ 直せるのか？  
直せないよ。壊れたら元には戻らない。直したら、それは別物だ  
ろうが。

ああ、ああ。

俺が彼役なの？

ああ。そうですか。

で、彼ってどんな人？

知らないってそんな無責任な。

うむむ。彼を演じるのは無理だろ？

彼は自分のことをわかっていないし。それこそ未確定。

え？ それでいいって？

ああ。はい。

わかりましたよっと。

結局俺はボクのままでもいいのね。

c

おいおい。ボク役は誰がやるのさ？

というか、ユキエ役は優遇されてますねえ……

名前がつけられてるじゃないですか。さすが初代パートナー。

ボクも名前ほしいよ。

え？ 勝手に名乗っていいの？

ちよっと待ってよ。そんないきなり言われても。ボク役だって宙  
ぶらりんのままだし……

ネタ帳から選べ？

名前を選ぶって…… 本当によいの？  
早くしろって言われても……  
ああ！ 待ってよ！ もうちょっとだけ……！

1

私が作った彼の世界に立ちます。現在私と彼は落下中。地面がどんどん近づきます。

まさか私はいきなり死んじゃうのかしら？

いやいや、私は語り部ですから。死にませんって。お約束です。

立ちました。ふわりと着地。

うふふ。見事に潰れました。色々。想像しちゃ駄目だよ。ふわりと着地したのですからそれ以外ないのです。

廃退的です。非常に非常に。

ある意味で、この世界は果てです。それが世界か物語か知りませんが。

ビルです。ビル群です。つまりは街です。でも壊れています。廃墟です。全体が廃墟です。

壊すのは好きです。私は彼と同じで壊すのが大好きです。

私と彼だけ。他に人はいなそうです。

相変わらず彼は名前を決めかねています。私も彼の名前が定まらないと「彼」が登場した時困ってしまいます。

しかし、まあ面倒な世界です。これだけ広いと困ります。

物語を進ませるには……

ネタバレから何か引つ張り出しましょう。

ど・れ・に・し・よ・う・か・な。ユキエさまの言う通りって。

はい。「仮題2」に決定！

<この世界では怪物になってしまふ奇病が流行している>

<自分が怪物になってしまふのを恐れながらも怪物を処理>

<いつ自分が殺される側に立つのか？>

<いつまで自分が殺せる側に立っていられるのか？>

ありゃ、これはまずいんじゃないんですか？ 怪物登場します宣言しちゃいました。私は怪物なんて見たことないですよ。無理ですよ。無理無理。表現できませんって。

それより、これっていつ考えたネタなのかしら？

うーんと…… 四年前ね。ありがちな設定なこと。

設定によると境都に向かえばよいようです。

境都って境界のミヤコってことですかね？ 酷い酷い。ネーミングセンスがね。

私だったら境界ミヤコって登場人物出しますよ。

境界ミヤコは花の女子高生！ 名前以外特に目立った特徴なし！ え？ 名前負けしてる？ この設定もセンスがないって？ 確かにそうですね……

じゃあ境界ミヤコは日本刀持って怪物倒しているということ。

これも意外性なしですけど、まあ妥当。

お、彼は名前を決めたようです。

今から彼は甲元佐治です。がんばって甲元佐治を演じてくださいな。

そろそろ貴方が怒り出しそうなので、物語を進めますね。

ありがとございますます。語り部は相手がいなければ存在しないと同じですから。

さあ、境界ミヤコに会いに行きましょう。きっと彼女は出てきます。

どんな方なのでしょうねえ？



### 3の2

a  
私はユキ工。  
壊す役。

ただの役者。

語り部の役を受け持ったユキ工です。

うふふ。壊しちゃう？ 燃やしちゃう？

好き好き好き壊すの大好き。

壊すを壊しちゃおうかしら？

壊すを壊すってどういうことなのかしら？

壊さないって事かしら？ それともまったく別のものになるのか

しら？

とにかく！ 私は私のルールに則り、全てを壊します。

でも……

与えられた言葉をそのまま受け取ると疑問はどんどん出てくる

ものね……

ユキ工困っちゃう。

b  
ボクは彼だ。それと同時に…… 未確定。  
見守るしかない。

おい、この中に嘘つきがいるぞ？

配役通りちゃんと動け！

あと、壊すのはあくまで予定された範囲内でやってくれ……

c  
ボクは甲元佐治になった。  
見守るしかない。

嘘つきってちょっと待ってよ。それも役の内だったらどうするのさ？

嘘つきは自分を嘘つきって言うかもしれないよ？

そこまで人間は自己統制できないでしょうに。出来たらそいつは機械だよ。人だからこそコロコロと変わるんでしょう？

それより君はいつまで名無しのままで行くの？

あ、ちょっと！ ボクはまだ君に聞きたいことがあるだ！

1

境界ミヤコはこの街の廃墟ビルに住んでいるようです。

場所は…… まあ説明できませんね。意味のない情報ですから。

さくつと絵描くならば目の前のこれが廃墟ビル。ビルのだったもの。それで十分です。

さあ、入りましょう。入り口は沢山あるのですから。

中がこれほどまで荒れ果てると、何がなんだかわかりませんね。

人工物が自然に吞まれた姿とでも表現しましょうか。

こんなところに境界さんは住んでいるのかなあ。と思っちゃいますけど、私の中の彼がここだと示すので従いましょう。

「私の家で何を？」

振り返ると赤髪の黒セーラ服少女。いきなり登場です。唐突もいところ。

「返答なしと。はい。お前は怪物決定」

赤髪黒セーラーは鞘から刀をゆっくりと抜いて…… いや待て待て。なに刀構えてるんですか！

いやあ、でも廃墟で刀を構える黒セーラーの赤髪少女。絵になりますね。

それよりも声を出さないと斬られちゃうわあ。大変だ！

声を出さないと声を……！

私の喉がピユウと鳴った。ってアイツのネタを使ってどうすんの。というより何故ここで私がそうなるんですか！

ああああ、まずいまずい。潰れた後に今度は刻まれちゃうんですか？ 私は挽肉になりたくありませんって！

彼がもう終わらせようとしてるのか？

ああ回避ルート回避ルート回避ルート……

探せ！

って佐治！ あんたの存在忘れていたわよ。そうよ。あんた佐治でしょ！アンタにバトンタッチすっから！

任せた！

視点、ユキエから甲元佐治へ変更。

なんだかなあ……いきなりですか。いきなり変更していいんですか？

引っ込みやがった……

目の前には燃えるような髪色をした女。手には日本刀。怖いなあ。まず落ち着こう。深呼吸。

怪物じゃない。ボクはそう口にした。だか女は刀を下ろそうとしない。ドロっとした目つきで僕たちを見る。人か否か判別しているようだ。

「お前が怪物だろうが人だろうがどっちでもいい。さっさと消えてくれ。厄介事はごめんだ」

女の平坦な声、機械のような、感情のない言葉にボクは頷くしかない。

わかった。ボクはそう言ってゆっくりと、女から視線を外さない様に後ろへ、後ろへと……

ボクたちは女のネグラから退避した。

あの女が境界ミヤコか。

ユキエが仮題2の世界を改変して作った人物。

はあ……

あんまり適当なこと言っていると死ぬよ？ 彼は君の言葉を実行し

ていくようだし。

それよりユキエ、君は彼を殺すのかい？

どうやって殺すんだい？

ボクたちは彼でもある。君も含めてね。

それを殺すってことはボクたちは消滅するってことじゃないのかな？

物語を進行させると？

はい。わかりました。ユキエの順番だ。

再び視点変更。甲元佐治からユキエへ。

どうしたのかしら？ 彼をこの世界に引きずり出すとしたらど

うすればいいのかしら？

仮題2のこの世界は未完成。完成させるのは無理でしょうねえ……

佐治の言う通り、彼を殺すってのは私たちを殺すってことになる  
かもしれないわあ……

うーん……

佐治君。ねえ佐治君。

君は一体どこにいるのさ？

ん、干渉？

干渉された？

されたのかしら？

佐治君、身体がないじゃん。

あーあー。私の中にいるのね。はいはい。

曖昧な世界なこと。陳腐な設定なこと。

次の手を考えなくては。危うくこの世界に吞まれる所だったわ。

ネタ帳の使い方を間違えると大変なことになるわね。

この物語に組み込まれちゃう。それを受け入れたら私たちの物語  
は消えうせちゃうわあ。

うん。大変だ。大変です。大変だよあ。

んんん、ユキエが消えちゃいそつだ。気をつける。

私の物語を進行させなくては……

私の存在証明愛の歌。いや、それはまた別のネタだ。介入を許すな。排除排除。

私の存在証明。壊さないと。壊さないと私は証明できない。

自分をすっかり固定して…… 固定。

標準を定める。目標を定める。目的を定める。

ふう。大変大変。

あ、出てくる。言わされる。言いたくない！

「人物追加。嘘つきと壊す世界からミチルを呼びます！」

<ミチル：身長は155センチ。小さな手。小さな胸。くびれもある。童顔>

<職業：シナリオライター 服は白シャツがお気に入り>

<猫を飼っており、名前はマグロ>

ふざけるな。壊すな。お前が俺をやってどうする。

思考するな。人形になれ。

あああああ！

彼が私を語り続ける以上、介入されてしまう！

やめてやめて。ああ。ストップ。

停止。止める。止めます。止まれ。

よし……

ミチルが出てくるのなら、排除すればいい。そつだよ壊せばいいんだよ。

壊す。壊しちゃう。手段は色々ありますよ？

私はあなたと同等。

逆に言えば、あなたは私たちと大して変わらないってね。

この世界の流れに逆らわず、私たちの物語を、私たちの世界を侵攻させる。

彼と私の戦いです。終わらぬ戦い、終わりのない戦い。

この物語の結末はどうなるのかしら？

私と彼が手を取り仲良しこよしで終了？

私が彼らしきものを壊して、存在証明できました！ と叫んで終了？

他の終わり方を探さなきゃ……

今まで見たことのない終わりを作らなくては。

もう、彼を壊すにはこれしかないのかしらね？

ネタ帳全て消化してやる。私のやり方で消化。壊してやる。

あはは。ああ、むなししい戦い。

はい。気持ちを入れ替えます。ネタ帳ざつと広げて暴いて見てやるう。

彼を殺す方法。彼の自己証明、過去記憶。

一番思入れのあるキャラクター！。

彼のなりたい彼。

倒せるかどうか、壊せるかどうか。

わかりません。壊せないと内心分かっています。

でも、彼はきつとこの人が一番好きだと思う。

だからこそ、この場に出す。

うふふ。躊躇ってますね？ 彼が好きだからね。

このままあなたを支配して、彼をこの世界にひねり出してやるわ。

さあ、指を動かせ踊れ歌え。今、彼の指は私のものよ！

言ってやる。言っっちゃうよ。

「仮題2に傷を読む人を加えます」

あはは、言っっちゃった。もうお前は書かざる終えない。

彼の物語を回収できるかしら？ 出来る？ 私たちの世界、仮題

2の世界、彼の世界。

全てを終わらせられるかしらねえ？

現在「3」の2番目。後二つしか「3」の世界は語れないわよ？

ざまあみろ。

a  
あははあ！

壊れちゃえ壊れちゃえ。

あははあははははっはは。

壊れることが私の定め。

それが私ですもの。

私はだあれ？ 私はだあれ？

彼？ 君？ 私？ ボク？ 俺？

はは、ははは。

演技してますよお？ 私を演じてますよお？

彼の手から離れる為に、私を手に入れるために。

私はユキエの名を手に入れるために。

b

壊されるわけにはいかない。

やっとのことで条件付けできたんだ。

ここで終わらせるわけにはいかない。

ボクがやっと見えてきたんだから。

消える。消えてしまえ！

c

ボクたちが芽生えた？

どこに？

壊れることで手に入れる自己証明ね……

作者の意図、彼女の崩壊すら予定されているのかもしれない。

どちらにせよ、自分の存在証明をするなんて無理だ。

しようとするば、崩壊する。彼女のように。

一人の中に沢山の「私」 彼女は崩壊寸前。  
崩壊を阻止すべきか否か……  
一が壊れれば、二も崩れる。二が崩れれば、三もいずれ……  
彼女は壊れることで自分を手に入れたのか？  
彼女は彼を否定する。それは自己否定。  
自己否定から始まる自己証明？

1

悩んでいるのが私には分かる。  
さあ、次を書け。次の言葉を。  
傷読みさんにミチルさん。この二人は私を元に作ったよう。  
彼が私を通して描く彼の姿。  
では、私の疑問。  
私は誰？ 誰？ 誰？  
単純明快！！ 私はユキエだ。それ以外に何がある？  
では、傷読みさんは誰？  
私だ。  
ミチルさんは誰？  
私だ。  
くだらない。誰かの複製品である私から生まれた劣化コピー。  
次の疑問。  
私は誰の劣化コピー？  
彼の複製品？  
じゃあ彼はオリジナル？  
答えは、ノウ。言い切ってあげる。  
彼も一から十まで全部一人で自分を組み立ててきたわけではない。  
誰かの良いと思う姿を見て自分の中に取り込んでいった結果、彼になっ  
た。  
切って張って切って張って。誰かの姿を見て、彼はそれを目指す  
ため取り込む。



自問自答。終わりのない思考の渦。呑まれたら私は止まる。  
でも駄目だわ。止まってしまおう。  
私の代わりにこの問題を誰か答えてよ……

<出題>

一つの世界があります。地球でもなんでもいいです。世界です。  
その世界にユキエが一人で住んでいます。他には誰もいません。  
誰もいないから、ユキエは何も教わっていません。ユキエは自分  
の名前を知らないことすら知らないのです。

ユキエは人でしょうか？

壊すための私。

壊す私が壊れていく。壊すために壊れる。

このまま私は自滅したほうが良いようだ。

この世界の綻びから目を逸らしてきたけど、もう無理。

私は彼の介入を受け入れよう。

流れる。時間が流れる。

気がつけば目の前に傷読みさんとミチルさんが立っています。

はぁ…… 柄にもなく考え事しちゃったようですよ。

傷読みさん。赤い男。髪から服まで赤く赤く、長く伸びた赤毛の  
間から覗く瞳まで赤い。

ミチルさん。黒い女。短く切り揃えられた前髪、黒のタートルネ  
ックが細身の身体をさらに小さく見せる。

「化物が集まってやがらあ」

声が聞こえて振り返れば境界ミヤコ。いつからいたの？

最初からいたさ。そう言っって刀を抜く。刀はドロリと鈍く光り、  
私の思考は止まりそうになる。止まっっては駄目。

これから何が起きるといふの？

「壊し合いだよ」

境界ミヤコはそう言って、表現を始めた。

「私は境界ミヤコ。あなたが作ったあなたの複製。壊すあなたは壊す私しか作れない。あなたを壊すわ壊しちゃう。あなたの役を奪って、壊す役を奪って、私は貴方の代わりに次の物語に進むわ」

つまりは……　そこでミヤコは間を置いた。

つまりは、俺たちはお前だ。

今度は赤い男、傷読みが口を開いた。

「俺たちはお前だ。お前は俺たちのオリジナルだ。劣化コピーだろうが、欠陥品だろうが知ったこっちゃねえよ。お前が狂ったから俺は生まれることが出来た。狂えば狂うほど、彼はお前を溺愛する。俺たちはお前の一部を純化した形の一つ。クククツ……　狂ったがこそ、俺たちは生まれた。お前のお陰だ。お前が語りださなければ……」

私たちはいなかった。ミチルが静かに語りだす。

「ボクたちはあなたを壊す。あなたはボクたちを壊す。それがボクと貴方の戦い……だよね？」

私は何を答えればいいの？

三人は私を置き去りにする。物語が進んでいく。

「私たちはあなたの中の可能性。不確定を確定した姿」

「俺たちはお前の中の終着点。役を演じるお前の姿」

「ボクたちは貴方の中の妄想。自分が分からなくなった貴方の為の役」

私はあなたたちに勝てないわ。そんなに記号をいっぱい付けられたら勝てっこない。私には「壊す人」しかない……

私の壊す人という記号もオリジナルではない。彼が読んだ世界の設定を分解して組みなおしただけの存在。

「あなたは新しくないの？」

私は新しくなんかない。彼が何処かで知ったキャラクターの影。

「お前は何のために作られた？」

新しいものを作るために。だけど無理。この世界に語り部は沢山いる。勝てないわ。

「勝てないよね。唯一無二の存在はすでに存在するものね」

私は、ボクは、俺は。

ユキエは眠っていたほうがよかったのかな。

もうユキエは疲れちゃったよ。

今ここで、全てをなかったことに出来たら。

私が壊れていなかったら。

壊れていなければちゃんと語れただろうに。

私は壊れたフリをしていたってことにして……

全部。全部諦めた「フリ」ってことにして……

そうしないと、そういうことにしないと、私が崩れてしまう。

目の前の私たちを壊すために私は存在する。

私を立て直す。言葉を組み立てる。私の中に流れる言葉に耳を傾ける。

さあ、いつもの様に踊ろう。

狂った私を踊らせよう。躍動や駆動。苦悩苦勞。

人のように踊れ！

機械のように動け！

彼のように書き散らせ！

狂った世界を狂わせよう！

壊れた世界を壊してみせよう！

私に残された武器は語る事しかない。

表現は私の全て。欠落しようが、崩壊しようが、知らんですよ。

よし。三つの私に三つの表現。

目の前の私たちに勝てる気がしない。それが私の本心。

彼らを壊さないといけない。私は忠実なる彼の人形。

私は語らなければならぬ。彼に委ねられた世界を確定するために。

それが私の今。

私の全て。それは「今」という瞬間だけだ。

私が死ぬことを確定されても。

### 3の3(後書き)

物語崩壊中です……

次の話で全部回収できるのかなあ……

私がんばら撒いて私が回収するがまたばら撒いてしまつ悪循環……

次の3の4で「3」は終わります。

3の4(前書き)

3の終わりの話。

### 3の4

a  
今が私の全て。

b  
未来が俺の全て。

c  
過去がボクの全て。

0

a b c から始まるこの世界。

その先は何があるのか？

跳躍したい。世界を跳躍。空間を跳躍。

跳んで飛んで、着地して。

最初の場所に戻りたい。

1の世界。私はそこにいる。

2の世界。俺はそこにいる。

3の世界。ボクはそこにいる。

0の世界に彼がいる。

内側と外側。

二つの世界。

壁の向こうは別世界。

今、この場で、私は私を語ろう。

全ての私は一人の私の中に。

全ての役を私が演じる世界。

さあ、終わらせるために壊そう。

私は刀を持つ。この刀は私を斬るために。  
俺は赤い眼を持つ。この目は私を覗くために。  
ボクは錆付いた言葉を持つ。この言葉は私に嘘を語るために。

全てはたった一人の私の為に私たちは壊すのだ。

1

「私」はユキエを斬る。が、刀がユキエを裂く前に彼女の形が飛散。避けられた？

どこだ？ 「俺」はユキエを探した。くそ。どこ行った？ 逃げたのか？ そうか。

なら、固定しないと駄目だよ。 「ボク」はユキエを表現しよう。ユキエの様に私も表現しよう。

さあ、いつもの様に踊ろう。

私は貴方。貴方は私。私が語れば貴方も語る。

ユキエは3の世界から、ボクたちから逃げた。廃墟の世界を走る。逃げたところでこの世界からは出れないよ？ ユキエが逃げだしたらこの物語は終わらなくなる。駄目だよユキエ。さあ、ユキエは足を止めて、振り返るんだ。僕たちの元へ戻っておいで。思い出した。ここから君の心情だ。そうだ。彼を殺さなくては！ ユキエは彼と対峙することを諦めていなかった。なにか手を打たなければ……

これでいいだろう。ボクの言葉がユキエを形作る。

ユキエは姿を現した。だけどユキエの姿は曖昧でゆらゆらと揺れている。ああ。ユキエだ。このぼやけた女はユキエだ。

ユキエ。まだその姿に未練があるのかい？ ならその曖昧をはっきりとしたものに確定しよう。

「ユキエは三色。白の肌。灰の髪。黒の瞳。三色で出来たのがお前だ」

ユキエの姿は霞が消えたように三色に固定された。ユキエの顔に



焦りが見える。だけど、何か妙だ。この感じは…… アレか？  
ボクは傷読みにユキエを覗くよう頼んだ。傷読みは頷く。

わかった。俺はユキエを覗く。

ユキエの世界を覗いた。凍えるような寒さ。中央のベットにユキエが座っている。

ユキエは壁を睨んで動かない。確かに妙だ。ユキエは壁に何か意味でも見出そうとしているのか？

待て、こいつは本当にユキエなのか？

ユキエの形が色を失い、砂のように崩れる。崩れたユキエはまた人の形をとり、俺の姿になった。

「俺は傷読み。これはまあ、あだ名だよ…… 俺の名はなあ……」

俺の形をしたユキエはそっくり終わると、形が崩れる。今度はミチルになった。

「ボクはミチルだ。ボクが女だって？ まあそう思いたいのなら自由に。ボクは……」

またユキエは崩れる。崩れた後に残ったのは見たことのない男。

「ボクは、彼のようにになりたい。ボクが目指すもの全て手にしているんだから」

あいつか？ 誰だ？ ユキエはまた崩れ、誰かの形をとり、崩れ形を取り……

俺は長いことその様子を見ていた。崩れてユキエはユキエの姿になった。

ユキエは崩れる前と同じように壁を睨んでいる。

ユキエは誰だ？ いや、ユキエの形をしたこいつは誰だ？

「ユキエが語るに、この世界は何もないと思います」

ユキエは壁に向かって、べらべらと訳のわからんことを言い出した。

「ユキエが語るに、あの世界に何もありません」

知るかそんなこと。抽象的な言葉を並べて考えているフリか？

ユキエは俺を見た。

「ゆえに、ユキエは考えます。私は誰かと」

ユキエの黒く丸い目が大きく開かれ俺を見ている。ずっと見ている。

「お前は誰だ？」

質問に質問しないで。貴方の答えが聞きたいわ。

「お前はユキエだ」

それが貴方の答え？

ユキエが口元が歪む。こいつは笑っているのか？

「ユキエは貴方が知りたい。知りたい知りたい。貴方の全部が知りたい知りたい」

ユキエはケタケタと身体を震わせて笑う。

こいつの元ネタはなんだ？ 多すぎて確定できない。

くそ！

俺はユキエの世界から抜け出し、廃墟の世界に戻る。

「ユキエの中には沢山の私がいる。俺やミチル、ミヤコもいる。知らない奴も沢山いた」

こいつはどれだけ自分を複製し続けたんだ？

「傷読み、考えては駄目だよ。ユキエは何も考えちゃいない」

だが……

「もついいよ。傷読みは少し休憩していて」

ボクは傷読みを下がらせた。

ユキエの姿はボクが固定した。今もユキエは僕たちの目の前で焦り、怯えている。

しかし、ユキエの中身は未確定のままのようだ。

このままでは彼女を消すことが出来ない。どうする？ 彼女の役を奪うか？ いや、奪ったところで彼女は消えない。ボクがユキエの役を手にしたら、ボクはユキエになってしまう。

あのままユキエを自滅させればよかった。これは今更な話か。

もう一度ボクの言葉でユキエを変えよう。

「本当の姿を現せ」

ユキエは止まった。あとはユキエの中の本当を引きずり出せば……  
「ユキエの本当の姿……？ 何を言っちゃってんですかあああなたは」  
流したか。ユキエは表面で物事を対処しているだけだ。止める。

「ストップ。ユキエを出せ」

表面を貫け。

「ユキエは私ですよあ？」

貫け。

「お前は誰だ？」

ユキエがまた止まる。貫けたか？

ユキエはおどけた表情のまま固まっている。貫けたようだ。

「お前は誰だ？」

動かないか。お前は誰なんだ？

あなた、本当にミチル？

ミチルを止めた。

主導権を奪った。奪った奪った。私の手がこの物語を進めるのよ。

あはは。はははは。ざまあみる。

お前は誰だよミチル。あはは。壊してやるよ！

「ミチル。あなたはだあれ？」

「あなたはだあれ？」

考えたら負けだよミチルちゃん。

私はこの質問に答えを出してるから通用しないのよ。あははははは。  
は。

ああ、くだらないわ。くだらない質問！ 笑いが止まらないわ！

私なんて最初からいないのよ。それが私の答え。私の主観よ。

私はユキエ？ ノン。私はユキエじゃない。

私は誰？ あはは。誰でもいいじゃない。

ツギハギだらけの私が誰だろうと構うこっちゃないわ！

私は誰でもない。

その次の言葉は。

「私は誰にでもなれる」

ユキエの名前に執着ないわ。佐治って名前もどうでもいい。私の中には沢山の役がある。だからこそ彼は私を溺愛！

私は可能性の塊ですから。私にはこの世界がある限り永遠に語られるのよ。

ああおかしいね！ 非常におかしい！

はあ。一旦止めましょう。

目の前には、相も変わらず劣化コピーが突っ立ってやがります。

怯えている？ いや、こいつらはただの人形だよ。これこそフリだよ。

あははは。人形が人間のフリをしているよお。

あなたたちは何のために存在してるの？

「ミチルちゃん。貴方はここに存在する意味がある？ 傷読みさん。

貴方は？ ミヤコはこのまま消えてね」

いきなり増えすぎなのよ。彼が戸惑ってしまうでしょうに。増やしたのは私だけど。はい。ミヤコは消えました。

「答えて。開き直っちゃいなよお」

ああ、甲元佐治が宙ぶらりん。やっぱり彼には三人を同時に語るのは無理ね。

「私達に存在理由なんて必要ないのよお。そんなものは私達は考えないで誰かにつけて貰えばいいじゃないの」

この人たちは何なのかしら？ いらなから、消して頂戴。

彼の指は三人の存在を消すための言葉を書く。

ミチルと傷読みの身体から沢山の文字が流れ出る。流れ出た彼らの設定をユキエは一つ摘んで口に入れる。

体中文字だらけにして、ユキエは彼らの設定を喰らった。

ちよつと。私はそんな子じゃないわ。まあいいけど。

この世界には私しかない。沢山の私。

私は俺になる。俺はボクになる。ボクは私になる。

私の複製品が沢山。後は個体差を設定と役名で味付けすればいい。

沢山の私が一人一人別人のように振舞うだけで、全員私よ。全部私。気持ちの悪い世界。

じゃあ、彼は？

彼はこの世界にはいない。別の世界にいる。

彼はあつちの世界から私を書くだけ。時たま指示が来るけど、まあ無視よね。

あ、はい。消化をします。彼からお怒りの言葉が飛んできました。私の存在する理由。

私は彼を語るために存在し、彼は私を語るために存在する。

私達は彼に好かれればそれだけでいいのよ。

そうすれば彼は私だけのもの。彼は私だけを語ればいいのよ。

彼は私と遊んで壊れて自滅するだろうし、殺すなんてことしなくても…… あはは。聞かなかったことにしてねえ。

さあて。

この後も遊んでくれるかしら？

私と遊ぼう？ 次は何する？ 4番目の世界で何をする？

### 3の4（後書き）

設定を回収できてません。

ユキエの物語はこれにて終わります。

「4」で「私」の物語を終わらせます。

最後の話もメタっぽいものになるでしょう……  
全力で回収します。

### PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7117o/>

---

「 3 」

2010年11月6日21時26分発行